

# 2022年和歌山県中学硬式野球選手権大会

## 大会約款(大会特別規定)

本大会は、和歌山県の中学生硬式野球団体が他団体と交流することにより、少年野球の普及・発展に寄与することを目的とする。

本大会に当たり、下記の大会特別規定を定める。

- ① 本大会に参加できる選手は、所属団体の規定を満たす者とする。2022年4月20日の時点で本大会に登録されたチーム以外からの参加は認められない。  
試合当日に提出されたメンバー表をもって選手登録とする。
- ② チームは単独とし、前項の規定を満たしたチーム所属の全ての選手で編成する。ただし、ベンチ入りできるのは11名以上20名以内の選手と監督・コーチ2名・スコアラーまたはマネージャーの4名までとする。選手・監督・コーチは同一のユニフォームを着用すること。ただし、所属団体に別の規定を有する場合、それを優先する。背番号は所属団体の規定の通りとする。
- ③ 本大会出場選手が試合当日に11名に満たない場合は、実行委員会で協議し決定する。
- ④ 今大会は原則として当該年度の公認野球規則、および大会特別規定を適用して開催する。
  - (a) 試合は2時間制を採用し、2時間を超えて新しいイニングには入らずそのイニングをもって勝敗を決する。但し4回までは継続する。2時間を超えてその回終了時同点の場合は(h) 1.2に定めるタイブレーク方式で勝敗を決する。
  - (b) 各チームの主将及び監督は、その会場の前の試合の4回終了時(但し4回時点でのコールドゲームが成立した場合は試合終了次第。第1試合については試合開始40分前)までに所定のメンバー表を大会本部に提出し、同時に審判員立会いの下で先攻・後攻を決める。また試合前に投手投球数記録表を必ず提出してください。(試合後勝者は本部で記録を記載された投手投球数記録表を必ず受け取り次の試合前に提出してください。)※初戦は本部で用意します。
  - (c) 試合は原則として7回イニングス制とし、降雨・日没その他理由により、試合続行不可能と大会本部が判断した場合、4回終了時点を持って成立(コールドゲーム)とする。
  - (d) 4回を満たさずに試合が中止の場合はサスペンデッドゲームとして、大会本部が指定した会場・日時で続きを行う。(ただし、この場合の会場・日時について実行委員会で協議した上で決定する。)
  - (e) また試合成立後、雨天等などやむをえない事情で試合を中止する場合のコールドゲームとなった場合は、両チームが攻撃の完了した均等回までの成績を対象とする。
  - (f) コールドゲーム宣告の時点での引き分けの場合、打ち切り時点におけるメンバー9人ずつによる抽選で次の試合に進出するチームを決める。

- (g) 得点差によるコールドゲームは4回以後終了時点で10点差又は5回以後終了時点で7点差以上ついた場合に適用する。ただし決勝戦は得点差によるコールドゲームは適用しない。
- (h) 7回を終了した時点で同点になった場合はタイブレーク方式により延長を再開する。
  - 1. タイブレーク方式は2時間を超えてその回終了時同点の場合、7回終了時同点の場合に行なう。1アウト満塁の状態で開催する。この場合、前のイニングの打撃を完了した選手の次の打順の選手が最初の打者となり、走者は1塁から順に前のイニングの最後から数えて3人の打者が勤める。(代打と代走は認める)
  - 2. タイブレーク方式は勝敗が決定するまで行う。
- (i) 投球制限については、別紙 『中学生投手の投球制限統一ガイドライン』を採用します。
- (j) 打者(次の打者も)・走者は危険防止のため必ず両耳に安全ガードを付けたヘルメットを装着すること。捕手も防護ヘルメットや所定の防具を装着すること。(練習時も含む)
- (k) 特別代走を認める。これは特別な事情(死球による負傷など)により、一時的に休めば試合に出場できると審判員が判断したときに限り適応する。この場合、その打者の最も近い打撃を終えた選手(投手を除く)を特別代走者とする。
- (l) 一試合のタイム回数は攻撃時3回、守備時3回までとする。(マウンドに3人以上の選手が集まってもタイムは1回とみなす)延長戦になった場合はそれ以前の回数に関係なく、1イニングごとに1回だけタイムをとることができる。
- (m) 監督が、投手のもとへ行ける回数は1試合1イニングにつき2回まで。(投手交代の場合は回数に数えない)3度以上投手のもとに行けば、自動的に投手を変更しなければならないが、その投手は他の守備につくことができる。また、一度他の守備についた投手が再び投手の位置についても差し支えない。また延長戦になった場合はそれ以前の回数に関係なく監督が、投手のもとへ行ける回数は1イニングごとに1回だけ認める。

# 2022年和歌山県中学硬式野球選手県大会

## 大会特別規定（補足）

- ①各チームの選手、監督は、その会場の前の試合の4回終了時にメンバー表交換までに会場入ることとする。（第1試合目のチームについては試合開始40分前までに会場入りすること。）
- ② ベンチは組合せ表の上段が一塁側とする。
- ③ ベンチに入ることができるのは監督・コーチ2名・スコアラー(マネージャー)の計4名と選手20名までとする。
- ④ メンバー表は、それぞれのリーグで使用しているメンバー用紙とする。また試合前に投手投球数記録表を必ず提出してください。（試合後勝者は本部で記録を記載された投手投球数記録表を必ず受け取り次の試合前に提出してください。）
- ⑤ グラウンド入りしたチームは、本部の指示のもとに速やかに試合前の練習を行うこと。グラウンドルールがある場合は、それに従うこと。
- ⑥ 試合前ノックは7分間とする。（時間厳守のこと）ただし、試合進行・グラウンド状態により行わない場合がある。
- ⑦ 試合をスピーディーに行うため、以下の項目を守ること。
  - (a)攻守交替時に守備に移るチームがスピーディーにポジションつくことはもちろんのこと、攻撃に移るチームも第一打者とベースコーチはミーティング(円陣)に加わらず、所定の位置に速やかにつくこと。
  - (b)投手は投手板に触れている状態で、捕手からサインを受けること。
  - (c)打者はみだりにバッターボックスを出ることは許されない。たとえタイムを要求しても審判員が宣告しないときは、インプレーとする。
  - (d)次打者は必ずウエーティングサークルに入り待機すること。
  - (e)捕手は投手に返球する時、野手に声をかけるために一球ごとにホームプレート前に出ないこと。
  - (d)投手の投球練習は、初回および交替時は7球、初回以外のイニング時は3球とする。
- ⑧ コーチボックスにいる者は、相手選手をまどわすような動きをしてはならない。

また打者に投球の球種を伝えるよう行為、またそれに疑わしい行為はしてはならない。
- ⑨選手の手袋などの使用については、対戦チームの不利益にならない範囲で使用を認める。
- ⑩試合中に次の試合チームの投手練習は、メンバー交換後(4回終了後)にグラウンド内での投球練習をしても良い。
- ⑪審判については、3団体から派遣の審判員とする。
- ⑫ゴミは球場(グラウンド・スタンドを問わず)に捨てず、必ず持ち帰ること。スタンドで応援する選手・保護者にも徹底すること。
- ⑬ 紀三井寺球場、有田吉見グラウンドはスタンドにはテント等は張らないこと。